頭陀袋

㉚ 平成二十七年一月号

発行　中山かんのん

恩林寺

中山中学下、電話三四―一二四五

佛のお慈悲

世を救う　三世の仏の心にも　似たるは親の情けなりけり。　子供がほめられればわたしが褒められたように、子供が成功すれば自分が成功したと、一瞬一時でも子供のことを思うお母さんの気持ちこそ、仏様のお慈悲に近いものはありません。

東日本大震災の被災地、福島県生まれの野口英世博士のことであります。

野口英世博士が子供のころ、母親が、ちょっと目を離したすきに囲炉裏に落ちやけどをしてしまい指が固まってしまいました。おかあさんは、自分の失敗と思い深く反省して、どうしてもなおしてやりたいとの思いから何軒もの医者を探し、ようやく使える手になりました。

そのお母さんに感謝した英世は医者になって気の毒なひとたちを救おうと医学を志し、アメリカにわたって、黄熱病の解明と治療に尽力されたのでした。

忙しい合間に日本に帰国して各地を講演して回っている巡業中、一時もお母さんと離れず一緒でした。大阪、箕面の茶店で休んでいたとき「お母さん。お茶をどうぞ。」「お母さん此処の紅葉はきれいですね）と、お母さんをいたわる英世の姿に感動した茶店の女主人は野口英世博士の銅像を建てたそうです。

子供はかわいいと思えば思うほど、幸せになってもらいたいと思えば思うほど、子供にお金や地位を作ってあげても、本人の努力が足りなければ、よけい不幸になります。かわいいと思えば思うほど、一番大切な時に代わってあげられない。だから親は陰で涙を流し何とかこの苦難を乗り越えてくれるように祈らずにはいられないというのが「慈悲」の悲です。サンスクリットのカルナーで「呻く」「嘆く」という意味を持っている字が「悲」です。親やが子供に乳を与えている姿は母子、一つになっております。サンスクリットのマイトラで「親近感」「一体感」の意味持っている字が「慈」です。アメリカインデアンのうけつがれていることばに[我々はこの大地を祖先から相続しているのではない。我々の子孫から預かっているのだ。」というのが残っております。祖先への感謝の気持ちと未来の人たちの配慮を忘れないで私たちは慈悲の心を温めたいものであります。

（犬山市先聖寺様の御説法より）

＊恩林寺年末年始の行事＊

十二月三十日　すす払い，大掃除、

十二月三十一日十七時　年末諷経(年末の感謝のお経)

十二月三十一日二十三時半　除夜の鐘

どなたでもご参加ください

一月元旦午前零時　祝聖（しゅくしん）歳旦祈願のお経

一月元旦午前九時より　下岡本三寺参り　願生寺、真光寺

一月二日より五日まで　恩林寺で新年互礼　お寺より檀信徒様へ年始にお伺いいたします